

# Environment: 環境報告



持続可能な社会の実現に向けて、環境保全活動を経営上の重要課題と位置付けています。未来の地球のために、様々な環境問題をオール小島全体で取り組むことで、より大きな環境負荷低減につなげることが大切と考えます。2019年は、5つのチャレンジ項目の達成に向け環境活動を推進しました。これからも2030年、2050年の世界を見据え、生産活動と環境保全の両立を図ります。

## 『もったいない精神』を 継承した環境活動

経営企画部  
経 理 部 担 当  
専務執行役員

松浦 裕司



### あらゆるステークホルダーとともに

自動車部品製造という立場から車社会に関わる中で、地球環境問題は私たちの生活や未来にとって重大な影響を及ぼす事象ととらえています。パリ協定やSDGsが国際社会で合意されたことを受け、企業に対する期待や果たす役割は大きなものになっています。当社もその動きに追従し、環境負荷の低減に取り組んでいく必要があります。

高い目標を達成するには、設計・生産技術・製造が三位一体となった活動が大切です。設計段階から生産ラインを構想することで、造りやすさの追求とともに環境負荷低減を図ることができます。当社には、自前で生産設備をつくってきた歴史がありますが、目標の達成に向け積極的に外部と連携し、共同開発・先端技術を取り入れ

ることも重要と考えています。これからもステークホルダーの皆様とともに環境に優しいものづくりを進めます。

### 環境活動は人づくり

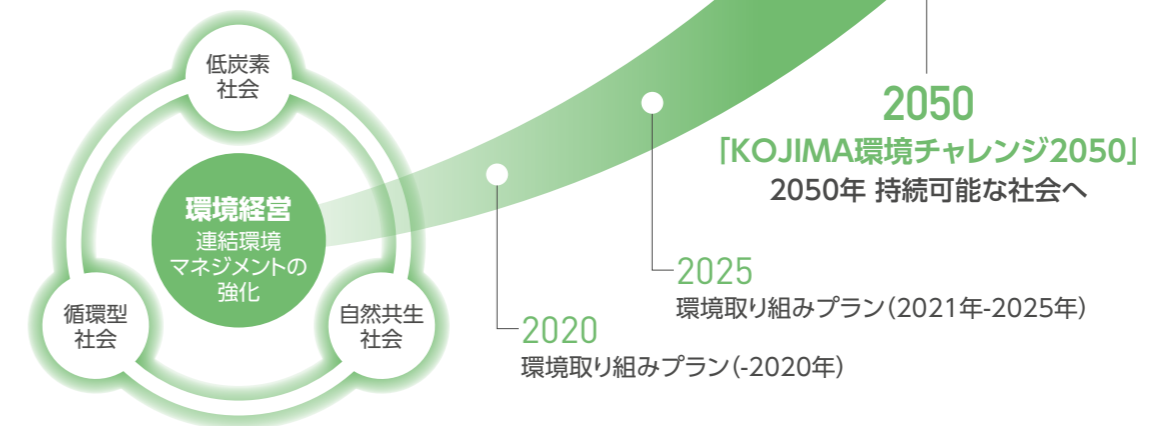
一般的に高性能な設備や新しい工程は環境負荷が低いものです。しかし、それらを使用する私達に環境に対する意識がなければ、十分に環境負荷を減らすことはできません。創業者の教えである『もったいない精神』を一人ひとり意識することが大切です。目に見えるものだけではなく、『熱』や『空気』といった目に見えない領域にも意識を向け、ムダ・ロス低減の活動を継続します。もったいないを具現化した環境活動を継承しつつ、新たな発想と技術を身に付けた人財を育成し、CO<sub>2</sub>排出ゼロ・廃棄物を生まない世界を目指します。

## 環境経営

持続可能な社会の実現に向けて、環境保全活動を経営上の重要課題と位置付けています。中長期計画を策定するための活動をキックオフし、生産活動と環境保全の両立を目指します。

### ありたい姿

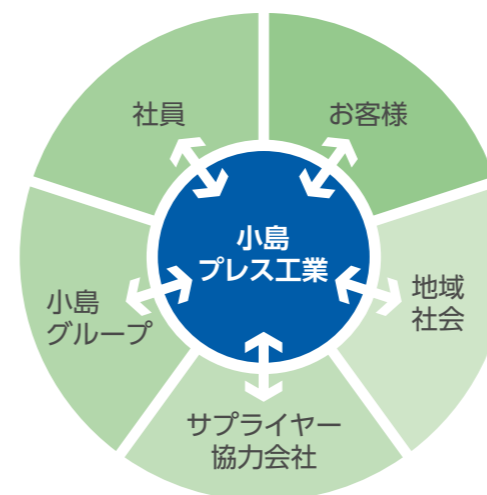
開発・生産・物流などの事業活動を通じて、持続可能な社会の構築に貢献していくため、『低炭素社会』、『循環型社会』、『自然共生社会』の3本柱を構築することで環境への取り組みを推進します。



### 環境ビジョン

すべてのステークホルダーの『和』を結集し、子ども達が安心して暮らせる持続可能な地球環境を目指します。

#### ステークホルダーの『和』



経済成長と地球環境保全の両立を図り、  
社会・お客様の持続可能性に貢献する

### KOJIMA環境チャレンジ2050

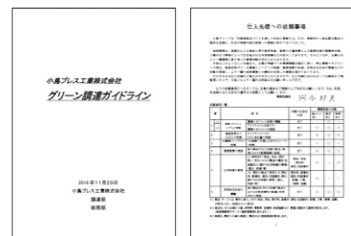
環境軸	取り組み項目	実施項目
低炭素 (気候変動・CO <sub>2</sub> )	①工場CO <sub>2</sub> ゼロチャレンジ	低CO <sub>2</sub> 生産技術の開発・導入と日常改善活動によるCO <sub>2</sub> 低減活動の推進、温室効果ガスの低減
	②ライフサイクルCO <sub>2</sub> ゼロチャレンジ	製品開発における環境マネジメントの推進(環境負荷評価)、環境に配慮した設計、物流活動における輸送効率追求とCO <sub>2</sub> 低減
循環 (資源・水)	③水環境インパクト最小化チャレンジ	生産活動における水使用量の低減と節水活動、水のリサイクル活動
	④循環型社会・システム構築チャレンジ	生産活動における排出物の低減、再生可能資源・リサイクル材活用による枯渇天然資源の使用量低減、物流活動における梱包資材の低減と有効利用、廃車部品に対するリサイクルシステムの展開
自然共生	⑤人と自然が共生する未来づくりへのチャレンジ	各事業所における自然保全活動の推進、森林保全活動による環境貢献
マネジメント	マネジメント	環境法令遵守と環境リスクの未然防止活動、苦情ゼロ活動の推進、製品化学物質管理の充実、環境教育を通じた啓発活動

# 環境側面・環境マネジメント・環境保全活動

## 環境目的・目標

	活動項目と19年度目標	19年度実績
①環境経営	統合マネジメントシステム認証継続 環境月間活動の実施 周辺苦情「0」	統合マネジメントシステム認証 環境月間活動の実施 地域リスクコミュニケーションの実施(本社地区)、周辺苦情「0」
②環境に配慮した開発・設計	目標:100%	・環境に配慮した設備導入チェックシート 低減目標:100%達成 ・環境を考えた研究チェックシート 低減目標:100%達成 ・環境を考えた設計チェックシート 低減目標:100%達成
③地球温暖化防止	CO <sub>2</sub> 排出量と売上高あたり原単位 目標:10,500t/CO <sub>2</sub> 目標:55.9g(千円)/CO <sub>2</sub>	実績:10,237t/CO <sub>2</sub> 実績:53.1g(千円)/CO <sub>2</sub>
	CO <sub>2</sub> 低減量 目標:▲207.0t/CO <sub>2</sub>	実績:▲280.1t/CO <sub>2</sub>
④水の適正利用	市水使用量 目標:31,633kl以下 工業用水使用量 目標:56,327kl以下	市水使用量 実績:31,634kl 工業用水使用量 実績:63,729kl
⑤廃棄物削減と資源循環	廃棄物排出量 目標:5,957/t	実績:5,434/t(リサイクル材含む)
⑥化学物質リスク低減	化学物質の使用・排出・移動量の把握 目標:36,589/kg	化学物質の使用・排出・移動量の把握 実績:総排出量 42,336/kg
⑦自然共生社会の構築	・福利厚生施設における開花フェノロジー調査 ・社員とその家族向けの活動紹介	・福利厚生施設における開花フェノロジー調査 ・社員とその家族向けの活動紹介 ・社有林における「植樹会」の開催

## 小島プレス工業グリーン調達ガイドライン



仕入先各社に対して、より一層、環境保全活動を推進していただくために、『グリーン調達ガイドライン』を発行し、各種活動に対する協力を依頼しました。  
今後も仕入先とともに地球環境との調和を目指した事業を推進します。

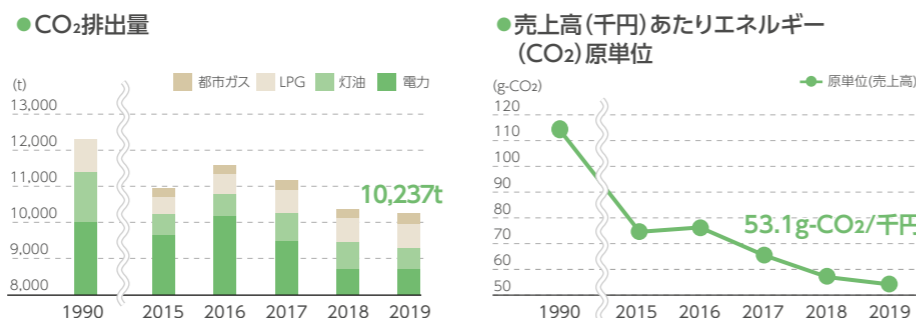
### 主な活動内容

- (1) 環境マネジメントシステムの構築
- (2) 温室効果ガス (GHG) の削減
- (3) 水環境インパクトの削減
- (4) 資源循環の推進
- (5) 化学物質の管理
- (6) 自然共生社会の構築

## CO<sub>2</sub>排出量の低減

当社では、地球温暖化問題を重く受け止め、CO<sub>2</sub>排出量低減を生産・物流の両面から推進しています。2019年は『ヤメル・トメル・サゲル・ナオス・ヒロウ・カエル』の視点でムダ・ロス低減活動に努め、環境保全委員会を通し、製造部門を中心に生産工程共通の課題である『エアリー漏れ改善』の取り組みや専技部門を中心に『もったいない活動』を実施しました。これらの日頃から省エネを意識できる

活動を実施した結果、2019年度の排出量は前年比1.3%減となりました。また、エネルギー効率を表す原単位は向上しました。



## 省エネ事例①:乾燥機レス成形機の導入

工場CO<sub>2</sub>ゼロの達成に向けては、環境負荷の低い生産設備の開発・導入が重要な取り組みです。自前でつくることの大切さとともに積極的に外部と連携し、新しい生産技術を作り上げていきます。2019年は、乾燥機レスシステムを搭載した射出成形機を導入することで、材料乾燥機を削減しエネルギー低減を図りました。



芝浦機械(株)との共同開発の様子

●1台あたり低減効果 CO<sub>2</sub>低減:▲3.47t/年

## 省エネ事例②:生産付帯設備の省エネ

原水槽(排水処理場)で排水の攪拌<sup>かくはん</sup>をしているブローアerpンプの稼働時間を見直し(制御フロートと回路の追加)、運転の適正化に取り組みました。その他にも、プレス加工

動作を利用したスクラップを排出するからくり改善により、エア使用量を低減しました。当社では生産付帯設備にも目を向け、徹底的なムダ・ロス改善を進めています。

●低減効果 CO<sub>2</sub>低減:▲3.87t/年

## 自然共生社会の構築

### 植生・昆虫調査

豊田市小原地区にある福利厚生施設において、国立大学法人名古屋工業大学らと連携し、植生・昆虫調査を実施しています。これまでに、植生200種と昆虫(トンボ・チョウなど)30種以上の個体を確認することができました。希少性の高い植物の発見もあり、生息環境の維持に努めます。

また、苑内の散策イベントには、多くの社員とその家族が訪れ、自然の豊かさに関心を示しました。



ハッチョウトンボ

モノサシトンボ

ミズオオバコ

キンラン

### 植樹活動

三重県多気郡大台町にある社有林で植樹会を開催しました。オール小島の環境保全担当者を中心に、総勢21人が実施。これにより、会社イベントで発生した39t-CO<sub>2</sub>をオフセット(埋め合せ)しました。

また、地元森林組合から、森林整備の重要性や多様な森づくりへの取り組みを学びました。



地域性苗木の植樹(90本) → CO<sub>2</sub>吸収量:39t

## 環境月間の取り組み

環境活動は、『全員参加』であることが大切と考えており、2019年は、eラーニング形式の教育を全社員が受講しました。時事問題や法規法令、会社の取り組みについて理解を深めました。

また、ムダ・ロス低減をテーマに『ヤメル・トメル・サゲル・ナオス・ヒロウ・カエル』の視点で創意工夫提案、改善事例を募集することで、エコマインドを高めました。

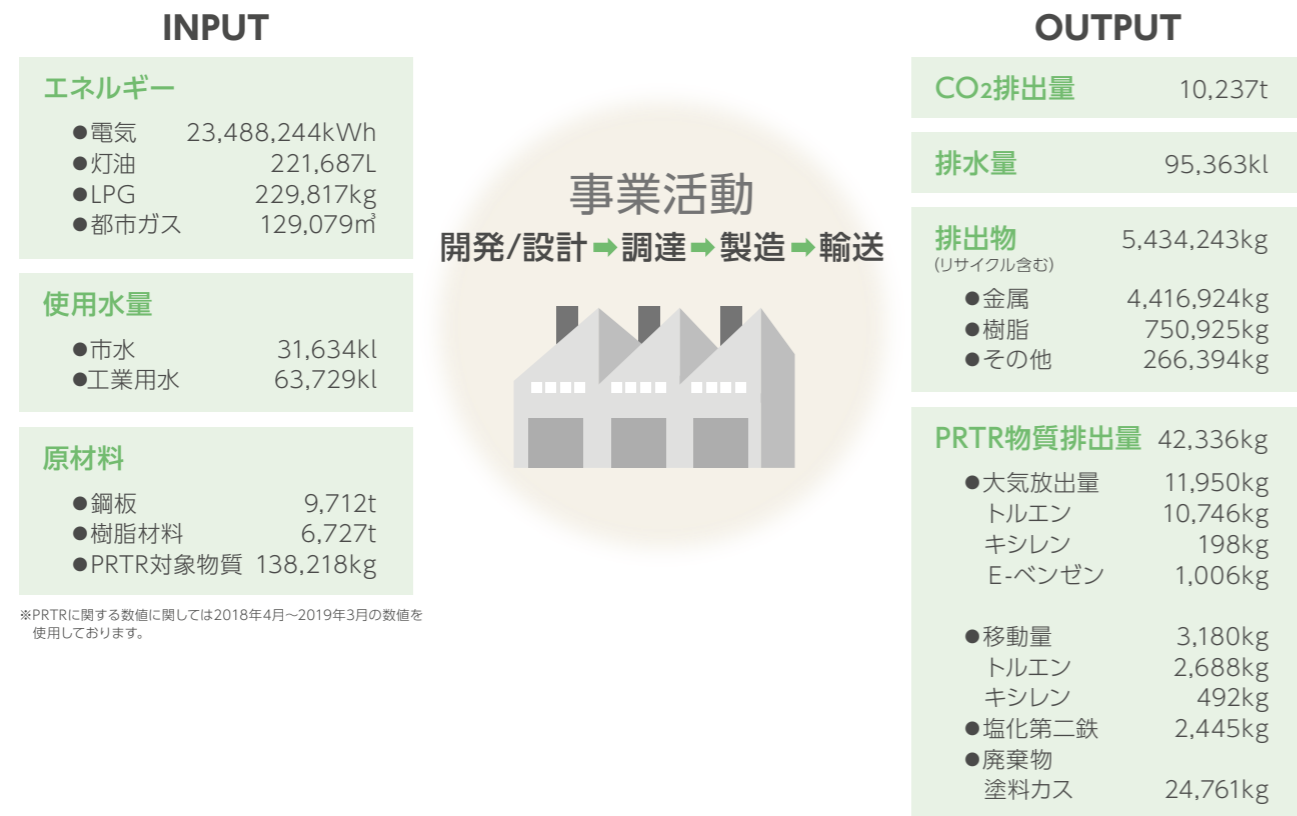
### ●環境創意工夫提案事例(抜粋)

成形材料乾燥機カレンダータイマー見直しによる使用電力量低減	▲1.3t-CO <sub>2</sub> /年
有機溶剤補充作業改善による、トルエン廃却量の低減	▲35kg/年
廃却ビニール袋再利用による産業廃棄物低減	▲4,000枚/回
食堂予備洗浄場の清掃に使用する水使用量低減	▲84L/回
給食便利用による納品方法の変更	▲0.9t-CO <sub>2</sub> /年

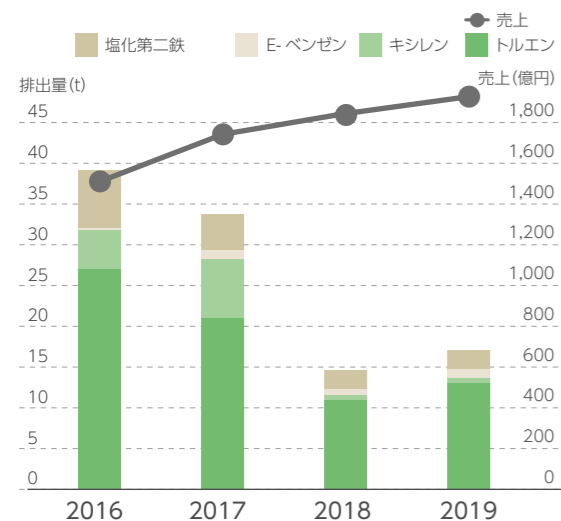




物質・エネルギー収支

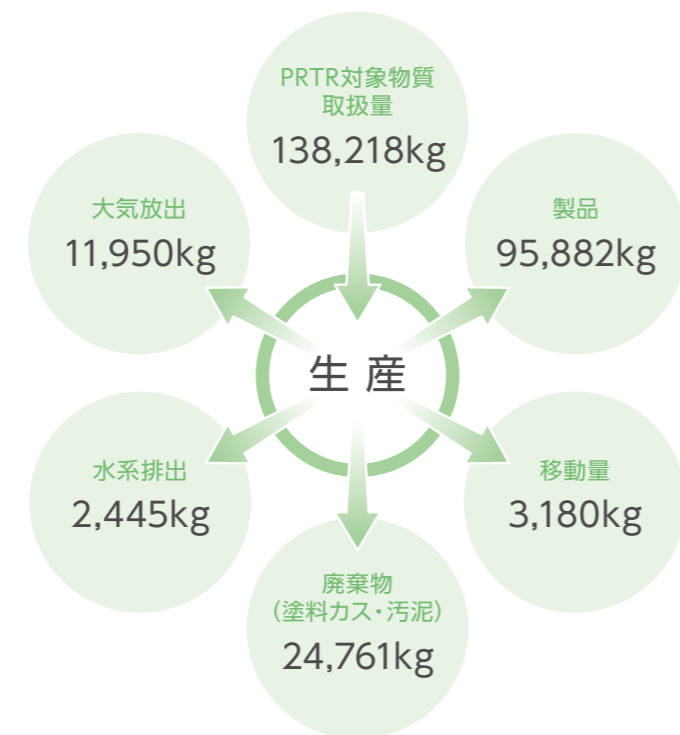


PRTR対象物質排出量の推移



※2019年度豊田市への報告資料を使用(2018年4月~2019年3月)

PRTR対象物質収支



環境測定データ

●本社・下市場工場

1. 大気 (対象設備全2台)

設備名	項目	基準値	測定値	評価
吸収式冷温水機	ばいじん排出量	0.3g/Nm <sup>3</sup>	<0.001	○
	窒素酸化物濃度	180ppm	46	○

2. 水質

項目	基準値	測定値		評価
		最大	最少	
PH	5.7~8.7	8.6	7.0	○
BOD	300	98	14	○
SS	300	72	4	○
ノルマルヘキサン(鉱油)	5	0.5	0.5	○
ノルマルヘキサン(動植物油)	30	7.8	0.5	○
亜鉛	2	1.6	0.01	○
窒素	150	4.5	0.6	○
リン	20	11	0.4	○

●高岡工場

1. 大気 (対象設備全3台)

設備名	項目	基準値	測定値	評価
灯油焚きボイラー	ばいじん排出量	0.3g/Nm <sup>3</sup>	<0.001	○
	窒素酸化物濃度	180ppm	80	○

2. 水質

項目	基準値	測定値		評価
		最大	最少	
PH	5.8~8.6	8.1	7.5	○
BOD	15	0.6	0.5	○
SS	15	1未満	1未満	○
ノルマルヘキサン(鉱油)	2	0.5未満	0.5未満	○
ノルマルヘキサン(動植物油)	30	—	—	—
亜鉛	1.5	0.04	0.01未満	○
窒素	30	6.4	2.6	○
リン	8	7.8	0.72	○

PCB(ポリ塩化ビフェニル)の保管状況

保管工場	コンデンサ(台)	安定器(個)	変圧器(台)	開閉器(台)
本社・下市場工場	0	65	0	0
高岡工場	0	0	0	0
黒笹技術センター	0	0	0	0
小島総合研究所	0	0	0	0
その他	0	0	1	0

※処理完了するまでの間は、流出や土壌汚染の恐れがないよう、PCB特別措置法にもとづく適切な管理を継続します。